

No	住所1	住所2	年代	意見	内容
1	肝付町	北方	20代	存続を希望する	現在のまま、小中学校が存続することを望みます。
2	肝付町	北方	10代	閉校もやむを得ない	<p>私は、内之浦小中学校の卒業生です。現在は、小学校教員を目指し〇〇教育大学に通っています。教師を志している私自身の見解としては、肝付町の小中学校は1つの学校になるべきだと考えます。もちろん、母校が廃校になることは非常に心苦しく切ないです。また、学校を統合すると、大半の児童・生徒はスクールバスを使用した通学になり、距離的にも決して近くはないため、通学に不安を感じる親御さんたちもいることと思います。</p> <p>現在、大学でこれからの教育現場に求められているもの、育成したい児童・生徒の資質・能力等について学習していますが、全てのことに統一して、多人数で学習していくほうが、児童・生徒にとってよりよい学びの場につながると考えます。「主体的・対話的で深い学び」の実現にも多人数がより適切だと考えます。あらゆる他者と学習していくことで、多方面から物事を捉えたり、多様な見方、考え方を発見したりすることが可能になります。</p> <p>教員不足といった大きな問題に直面している昨今において、小規模校で少ない人数を指導するよりも、小・中学校の数を減らし、教師の在り方を考え直すことが、教員不足の解決にも繋がります。これらのことを踏まえて、私は肝付町の小中学校の合併を望みます。</p>
3	肝付町	南方	60代	存続を希望する	<p>小中学校等の在り方については、児童数が減少したという問題だけでなく、この町全体の人口が減少したことに深く関わっていると思います。若者が他市町村に出ていけば、当然子どもたちも他の学校に通うことになるわけですから。色々な方向から考えることで結果的には1つの共通する目的に達する。学校存続もその一つだと思います。しかし、この意見書がしっかり行政に届くのか疑問に思います。町民の声を聞き、何度も協議を重ね、将来を担う子どもたちのためにできることを町民全員で考えていきたいと思っています。そのためには、この意見書をしっかり役立ててほしいと思います。できることは、これからも協力していきたいと思っています。検討委員会の皆様、お疲れ様です。よろしく申し上げます。</p>
4	肝付町	南方	50代	存続を希望する	現状のままでいいです。
5	肝付町	南方	80代	存続を希望する	子どもや孫が育った学校をなくさないでください。
6	肝付町	南方		存続を希望する	現状維持でしてほしいです。子供の声が聞こえなくなると活気がなくなってしまう。
7	肝付町	南方	40代	存続を希望する	統廃合をすることに反対です。
8	肝付町	南方	30代	存続を希望する	<p>肝付町の町づくりとして衰退に進んでいくので統廃合について反対です。学校が廃校になる地域の過疎化が目に見えています。まず、学校がなければ若い世代、子連れの移住者が増えづらくなります。学校の統廃合よりも、通信制でもいいので高校卒業資格が取れるような場所を空き教室でも使い、作っていただきたいです。そうすることで、町に居着く子どもたちが増えていきます。</p> <p>町役場でも中学卒業からでも雇用する、漁業、農業、畜産業、林業などの一次産業からその加工、販売までの肝付町産のものを増やせるような雇用のサポートが現実的にこの町を豊かにしていきます。行政の方は、担当課がそれぞれに違うのも問題で、様々な課が連携することが大切です。</p>
9	肝付町	南方	30代	存続を希望する	<p>この統合のスケジュールなどは、保護者や子どもたちの意見が反映されているのですか？急な気がします。意見交換会も知らない人が多く、周知も十分でなかったように思います。</p> <p>この意見書も、氏名、住所、勤務先を記入しないといけないというのも何かハードルが高く、意見を言えない人もたくさんいるのではないのでしょうか？</p>

No	住所1	住所2	年代	意見	内容
10	肝付町	南方	70代	閉校もやむを得ない	<p>①これまでの検討委員会の開催状況、協議内容を見るときに、岸良校区の委員以外の意見がないのが寂しい限りである。将来の早い時期に、内之浦校区も高山地区への統合がすることを考えて議論すべきであるのに、意見を述べないのは委員としての資質を疑う。</p> <p>他の委員も、他校区の問題、少子化でやむなしとせず、もう少し真剣に学校再編について意見を出し合って方向を導き出してほしい。</p> <p>②地域にとって学校の存在は、地域の盛衰に直結する重要ごとであります。定住や移住などを考えている若い人にとって学校の存在は、居住判断の大きな決定要素であると思います。これまでの岸良校区への移住者や山村(ウミガメ)留学の関係者と教育委員会は、協議をしたことがあるのですか。彼らは納得しているのだろうか。町はこれからの定住施策の推進をどのように考えているのだろうか。</p> <p>③全国的に少子化の状況下で教育委員会としては、児童生徒数の減少を考慮した基本方針(案)にならざるを得ないと思われる。しかしながら、少子化の問題、過疎対策について、もう少し真剣に施策を講じてこなかった町当局には大きな責任があるといえる。昭和30年代には、岸良校区にも今の高山小、中学校を凌ぐ児童生徒数が在学していたのだから、内之浦校区においては、千人を超す児童生徒が就学していた歴史がある。これらのことを念頭に、今以上に子どもが減少しないように、地域の定住化対策としての産業の振興、支援策を考えるよう検討委員会も町当局に進言することを期待したい。町の首長や議員、教育委員などの有志は、確固たる理念やビジョンに基づく施策実現のため、地域振興をはじめ町民全体の幸せのために働いてほしい。</p>
11	肝付町	南方		存続を希望する	<p>私の意見は、他の学校と一緒にすることについて反対です。反対の理由についてはまず、内之浦などから子どもがいなくなるのが嫌だからです。孫や娘、息子がいなくなった高齢者や地域の方々が悲しむのもいやだし、子どもの元気良さがみんなの元気になっていると思います。</p> <p>もう1つは、その地域ごとの伝統的な行事が学校で行われなかったり、失われたりするからです。人数が多すぎるとできないことも増えてくると思います。逆に友達がたくさんできたり、いいこともいっぱいあると思うけど、私はその地域の伝統や大切なものを守っていくために別々に学んで交流するなどをし、仲を深めたほうがいいと思います。</p>
12	肝付町	南方	10代	存続を希望する	<p>私は、内之浦小学校、中学校が他校と合併するのは反対である。理由は、2つある。1つ目は、通学時間が長くなってしまふからだ。私は現在バス通学で1時間弱かけて通学している。もし、合併してしまえば、岸良の人は朝早く起きて通学しなければならぬ。低学年である子どもにはきつと負担になってしまう。高校生になった今でも負担に感じる時があるからだ。そんな負担になるようなことを小さい子どもたちにはさせたくない。</p> <p>2つ目は、今まで卒業した生徒の母校が消えてしまうこと、ただでさえ子どもが少ないのに内之浦に小学校も中学校も無くなってしまうと、人がいなくなってしまうからだ。卒業した生徒、児童の母校が無くなってしまうこと、これより深い悲しみはない。また、内之浦や岸良は遠方にあるため、通学するとなると近い高山を選ぶはずだ。すると、内之浦、岸良からは人はいなくなってしまう。元気に登下校する姿、挨拶などがもうみることがなくなってしまう。本当にこれでいいのか。</p> <p>以上、2つの理由が私が反対であるという理由である。また、こういう状況も踏まえたくて、検討していただきたい。肝付町の子どもたちの事を思っの提案だと思うが私は反対である。</p>
13	肝付町	南方	40代	存続を希望する	<p>町内の小中学校を統合することに反対です。小中学校がなくなった地区は人口が減り、最終的には消滅する。また、まだ該当地区に子どもがいるにもかかわらず統合により近くの学校を廃校にしまえば、その地区の子供にしわ寄せがいく。通学に時間がかかり、学校行事へ参加する保護者にも負担がかかり、学校以外で遊ぶこともできず、孤立してしまう。そもそも児童・生徒の減少は20代～40代の人口流出によるもので町政の力不足が原因。行政は減少の対策よりも増加へ導く努力をするべき。</p> <p>基本方針(案)の進め方にも反対する。学校での説明会もなく広報誌に載ることもなく、町内放送もなく住民説明会もなく、この用紙でさえも回覧されず、一部の人間だけで話が進められ、都合の良いように運んでいるようにしか思えない。多くの意見を集める努力をするべき。</p>
14	肝付町	南方	50代	存続を希望する	<p>学校の統廃合反対。地域、地区に学校が無くなれば、さらなる過疎化が進むため。そもそも働く世代の流出、流入に施策すべき。</p>

No	住所1	住所2	年代	意見	内容
15	肝付町	北方	60代	存続を希望する	<p>高山小中学校との合併には反対です。今、子ども達は少人数ではありますが、それぞれに個々の特徴を活かしながら、内之浦の地域に馴染んできています。その子どもたちが、高山小中学校との合併により、環境が変わることで体力的にも精神的にも影響をきたすことは目に見えています。</p> <p>それより、もっと地域の活性化を図り、山村留学等の受け入れ等を充実してほしいです。</p>
16	肝付町	南方	60代	存続を希望する	<p>私は、この学校の統廃合の問題は肝付町全体の問題、町の存続に関わる大きな問題であると思います。なぜなら、岸良校区、内之浦校区、国見校区、波野校区から学校をなくすことは、その地域の崩壊を急速に招き、さらに肝付町全体の崩壊に繋がってしまうからでもあります。</p> <p>学校がなくなると子どもを持つ若者の多くは、通学など色々大変なことが多くなり学校に近い他の地域に引っ越すことが予想されます。引っ越し先も同じ町内とは限らず、学校と仕事がある場所に引っ越すことでしょう。現在、自然豊かな小規模校を求めて移住してきた人たちも他の地域に移住してしまうでしょう。したがって、若者がそれらの校区からほとんどいなくなり地域を支え税金を払ってくれる人が激減してきます。町全体としても若者の流出が今より多くなることは明らかです。</p> <p>肝付町が生き残り、繁栄するために私なりに考えたことを提案させていただきます。</p> <p>1 岸良校区、内之浦校区、国見校区、波野校区に学校を残すことを望みます。奄美地方では、地域の活性化のために、児童生徒が少なくても小学校と中学校を1つの場所に併設しています。〇〇小中学校として残しています。学校を残すことで地域に若者が残り、その土地の文化や産業を守っています。肝付町も小中併設をして校舎や設備・校庭などを小中学校で共有することで予算を削減でき、若者がその地域の文化や産業を受け継いでいくこともできます。予算削減を工夫しながら各校区に学校を残すことを望みます。</p> <p>2 老朽化した校舎が多いこと、バリアフリー化をしなくてはならないことなどは、高齢化の激しい肝付町の財政としても苦しいことだと思います。しかし、若者をこれらの校区やこの町から追い出せば元も子もありません。学校だけの問題でもなく、ほんの一部の人たちだけで決められる問題でもありません。予算を伴う問題なので、多くの人たちの知恵で町全体の将来を見据えた活発な議論をしていく必要があると思います。</p> <p>3 若者は、肝付町の宝であり未来の光です。若者が希望をもって住む町、移住してきたい町づくりを早急に本気で取り組まれることを望みます。今が肝付町にとって最後のチャンスだと思われます。学校や若者に必要な予算をつぎ込むことも大事ではないでしょうか。様々な事業にしわ寄せがくるかもしれませんが、肝付町を存続させるため、町民の命と健康を守ることに若者を増やすことが大切だと町民に周知させ、行政と町民が一体となって若者を増やすための方策、出生率を上げるための方策を考えて早急に行うことを望みます。</p> <p>4 肝付町は、山や海に恵まれ美しい自然が数多くあります。また、漁業や農業、畜産業、林業や商業など多くの産業もあり豊かなところですよ。美しい自然を生かした観光や各産業の発展のことも合わせて話し合い、活気あふれる肝付町を皆で作っていくことを望みます。これまでも町政で色々取り組んで来られたと思いますが、現在日本各地に観光の波が押し寄せて来ていますので肝付町も乗り遅れないように、体験を取り入れるなどの観光や各産業・特産物などを結びつけた取り組みをして働く場を増やし、若者を呼び込んでほしいです。体験を取り入れた観光は、様々な産業から取り組み少ない予算で実践できると思われます。</p> <p>肝付町が衰退し児童生徒数が減少することを前提にした案ではなく、児童生徒を増やす方策を本気で実践してから、学校の在り方を議論していくべきではないでしょうか。</p>

No	住所1	住所2	年代	意見	内容
17	肝付町	南方	70代	存続を希望する	<p>・学校に係る経費を削減したいという事は理解できるが、現在ある学校はそのまま存続させ、校舎や施設などを小規模化することによって経費を削減すべきではないか。</p> <p>・今後町をどのように発展させるかという検討の中に、学校はどうあるべきかを検討すべきであるのに、学校の統廃合が前提となっており、本末転倒ではないか。</p> <p>・学校の統廃合は、学校関係者だけの問題ではなく地域にとって大問題であるにも関わらず、以前から町づくりに取り組んでいる関係者が委員の中に入っていないのはおかしい。</p> <p>・学校規模が大きいから人間関係が醸成されるのではなく、少人数でも関係の深さが重要なのではないか。地域にとって学校や子どもは希望だと思う。</p> <p>・学校の統廃合という重大事に関しては、広く町民に周知すべきことである。公開であれば、町の広報誌に掲載したり、町のホームページでも検索しやすいようにしたり、各公民館や役場・支所・出張所などネットを利用しない人にもこれまでの経緯(ネット掲載の内容)を知らせたりすべきではないか。町民はこのことを知らない人が多い。</p>
18	肝付町	南方		存続を希望する	<p>・「肝付町今後の学校の在り方検討委員会」の委員の方々の当事者意識の薄さと、それで良しとして進めてきた教育委員会の消極的な姿勢について</p> <p>この検討委員会について町HPには「義務教育の機会均等や教育水準の維持・向上、小・中学校等の規模の適正化や小規模化に伴う諸課題への対応策の協議を行う」ために設置したとありますが、その協議が十分になされたとはとても思えず、方針を決定するのは時期尚早だと考えます。</p> <p>昨年11月から3回開かれた会の概要が町HPに記載されていますが、委員の発言の少なさが目立ちます。代表者たる委員の方々の当事者意識の薄さと、このような会の進め方で良しとした教育委員会の消極的な姿勢が残念です。「会の最中ではなく前後に発言が寄せられる」と、2月2日の岸良地区での意見交換会で教育長は困ったようにおっしゃっていました。そう言われては、「あらゆる意見を十分に集約・検討できていないじゃないか」とこちらも困ってしまいます。統合すべきという意見、小規模を磨き上げるべきという意見、考えを未だ定められないという意見…。検討委員会というからには、寄せられた意見・想定される意見を出しきり検討し尽くしていただきたいと思います。そのような会の進行を、事務局である教育委員会に求めます。</p> <p>・地域にとっての「学校がある」というアイデンティティが軽視されている現状と、地域振興や移住促進の分野の方々との連携について</p> <p>「学校がある」＝「この地域に未来がある」と言えるほど、地域住民にとっては重要なアイデンティティです。学校があると子どもたちの声が聞こえる、姿が見える、それだけで元気が出ると、岸良地区の地元の方々はおっしゃいます。これは子どもたちの義務教育にとっては関係のないことです。しかし地域住民にとっては、少子高齢化が進むこの地域もまだ捨てたものじゃない、と思える源なのだと思います。この源は、地域にとっては切実なものです。</p> <p>また、私が知る岸良校区は町内でも移住者が多い地域で、岸良学園にもその子供たちが複数名通っています。内之浦校区にも山村留学制度はありますが、その内之浦ではなく岸良を選んで住んでいる家族、学園に通っている子どもたちです。小規模だからといって岸良から安易に学校をなくすことは、今後の移住促進の妨げにもなります。</p> <p>学校がなくなることにより、地域住民の活力低迷や移住者離れといった長期的なデメリットが発生することは明らかです。この点が軽視され検討がなされないまま統合の方針が決定されようとしていることが、地域の不安を煽っている一因ではないでしょうか。</p> <p>この点について、地域振興や移住促進に関する行政の担当者、そして地域振興や移住促進に関わる地域の代表者の意見や対応策の有無を問います。統合するにせよ小規模のまま存続させるにせよ、今後の学校の在り方は、教育委員会や学校、PTAだけでなく、地域振興や移住促進の分野の方々とも連携して検討しなければならない時期にあると考えます。</p> <p>以上、ご査収の程、何卒よろしくお願いたします。</p>

No	住所1	住所2	年代	意見	内容
19	肝付町	南方		存続を希望する	<p>教育委員会の進め方への意見と、内之浦小中と岸良学園の統合反対について記述します。</p> <p>学校の在り方については、文部科学省が平成27年に策定した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」を参考に進める必要があると考えます。 手引のP.3には「学校規模の適正化や適正配置の具体的な検討については、行政が一方向的に進める性格のものでないことは言うまでもありません。」とあり、また過去に無理な学校統廃合の強行による弊害を反省して昭和48年に出されたいわゆる「Uターン通達」が示す通り、地域住民の十分な理解と協力を得るための丁寧な議論が重要です。手引には留意すべき点として、P.18から学校教育活動を目にする機会が少ない地域住民への十分な情報提供の必要性、具体例として教育委員会の担当者や学校関係者が地域住民と共に学校訪問を行って議論を深めたりするなどの例が示されていますが、肝付町教育委員会でそのような十分な情報提供や議論が行われたとは感じられません。</p> <p>また令和6年2月2日に行われた意見交換会にて教育委員長より検討委員会では意見があまり出ないといった発言があったようですが、それこそ情報提供と議論が不十分な結果であり、文科省の手引に違反した教育委員会の進め方に問題があると強く抗議します。</p> <p>内之浦小中と岸良学園の統合反対については、岸良校区の変化が急激すぎること、効果に疑問があるためです。約2,000件の署名や議会承認を受け令和3年4月に開校したばかりの岸良学園が2年未満で統合の話になるのは展開が急すぎ、岸良校区の方々の負担が過剰になりすぎだと考えます。</p> <p>また、内之浦小中と統合しても手引にある標準規模の学校には程遠く、効果は薄いと考えます。 逆に、岸良校区は移住者など外からの子供が多く、学校の存在が移住選択の1つとなっていると予想され、岸良校区の子供が急速に減少する悪影響の方が大きいと懸念されます。 さらに、近い将来に再度大きな統合の話が出ると今回の統合にかかる労力も無駄になるため、例えば高山と内之浦の統合が検討される際に一緒に検討する方が良いと考えます。</p>
20	肝付町	後田	10歳未満	存続を希望する	国見小学校がなくなりませんように。わたしは、国見小が好きです。
21	肝付町	後田	10代	存続を希望する	私は学校を統合してほしくないです。 私は、国見小のみんなで遊んだりするのが好きです。 国見小はみんなが仲良しなので統合してほしくない！
22	肝付町	後田	10代	存続を希望する	私は、国見小が好きです。自然豊かで少人数だけどみんなにぎやか。そして、みんな仲がいいところ。たくさんの良いところがあり、素晴らしい地域の特色でトレードマークです。それなのに、このトレードマークである国見小や国見中をなくしたら、国見の地域がさびしくなってしまいます。なので、私は学校を統合しないでほしいです。
23	肝付町	後田	50代	存続を希望する	地域をさらに過疎化にしない為にも。素晴らしい学校をなくしてしまうのは反対です。 続けるにはどうしたらいいかと方向をかえてはどうでしょうか？全国には移住を考えている子育て中の家族もあるはずで、この住みやすい肝付、国見をもっともっと外にアピールして人口を増やすという方法などないでしょうか？流鏝馬など歴史伝統を守り続けている肝付町です。学校の歴史、伝統、思い出もこの先も守り続けていくべきだと思います。地域から学校が無くなれば、若い世代も遠ざかって行ってしまいます。しまいには、地域までも無くなってしまいます。学校があるからこそ、国見の地域が活性化していると思います。私達の地域、国見を守ってくださることを願います。校区外の受け入れや小規模校を望む方の受け入れなども運営を続けていける方法にはならないでしょうか？朽ちていってしまう学校を見たくはありません・・・存続をのぞみます。
24	肝付町	後田	10歳未満	存続を希望する	わたしは、今国見小の三年のみんなで仲良く過ごしています。金曜日は「3年生のみんなであそぶ日」でなかよくすごしていて、とっても楽しくていつも「この学校でよかったなあ」と思います。そして、学童にいくときも学童に行くみんなで今日のおやつは何かとかしゃべって楽しく行っています。わたしは、国見小が好きです。国見小にはゆうぐもたくさんあって、つき山もあって楽しいです。だからぜったいに「なくならないでほしい」と思っています。

No	住所1	住所2	年代	意見	内容
25	肝付町	後田	10代	存続を希望する	私は、国見小を卒業し、国見中で保育園からの友達とともに毎日楽しく過ごしています。そのなかで「2年後に、私達の母校がなくなるかも」という話を聞きました。特に私達への話や説明もなく言われたので何も理解していない状況といえます。町が何をどうしたいのか、私達にも教えてもらえないと反応のしようがないと思います。また、私のクラスでは、小6年生のときに20歳の自分へのプレゼントや手紙などを入れたタイムカプセルを作りました。だから「成人式の後に取りに行けないかも」と思うととても悲しいです。また、私が卒業した後も、妹や弟が小中学校に入学します。その時に、私が卒業した学校でないのも少しさみしく思います。何よりも、今まで国見小中学校を卒業した人たちの思い出や母校が消えてしまうのは本当に悲しいと思います。そして、まだ子どもはたくさんいるのに、廃校にしてしまうのはもったいないと思います。そして、小中学生やその親に分かりやすく、具体的に町がしたいことを1から10までしっかり説明してほしいと思います。
26	肝付町	後田		存続を希望する	私は、県外から国見にきました。国見の方々はとてもあたたかく、顔の見える関係で子育てできることがとても嬉しく思っています。国見は地域の方々との交流がとても多く、いろんな活動がされています。地域の方々に見守られながら、のびのび育つ子どもたちは本当に楽しく学校生活を送っています。 高山と統合となると、それもなくなくなる。こんなに悲しいことはないです。統合反対です。もし、統合したとして、子どもたちが大規模校が合わなかった場合、子どもたちの逃げ場は考えられていますか？小規模校も残しておく必要があると思いませんか？ 高山は学校だけでなく、保護者の悪い話しか聞こえてきません。不安しかありません。学童で高山小の子どもとも接しますが、言葉使いなど、国見の子ども達とは考えられない内容のことを言ったりしています。学校でも同じなんじゃないかと思えます。学校の先生方は目の行き届いた教育をしてくださるのでしょうか？ハード面もまだ何も整っていない状況だと聞きます。どうか、国見を残してください。
27	肝付町	後田	40代	存続を希望する	今回の検討は、統廃合云々より以前に議論の進め方に大いに問題がある。住民説明会は広く周知されるように広報されたのか。「学校の在り方」という表記で「学校の統廃合を議論する内容」ということが果たして理解されたのか甚だ疑問である。わざと参加者が多く集まらないようにしているとか思えないやり方で進められている。アンケート調査も事前説明もなく配布された1回のみ。保護者や住民に十分な説明を行ったと言い切るのなら、説明を受けたうえで改めてどういう方向にしたいかアンケート調査、もしくは校区ごとの方針を出させるようにすべきである。あたかも形式上は保護者や住民の意見も反映させたかのように見せかけ、実態は一部の人間の方針に沿って誘導するように進められ、保護者や住民の意見は無視するやり方で行われている。どの地区の保護者も住民も全く納得していない状態で、進められている。肝付町から民主主義は無くなったのか。色々情報収集すると、当初から「2年後の統廃合」が念頭にあったのは明らかで、夏の説明会で「存続化統廃合についても時期は白紙」と説明したのは嘘だった。一旦、ゼロベースに戻し、住民や保護者の意見に寄り添った議論で再検討すべきだ。
28	肝付町	後田		存続を希望する	国見地区から保育園もなくなり、小中学校までもなくなるとより一層過疎化が進んでしまうのではないかと思う。我が家は一人親家庭だが、他の市町に比べて手当等も少なく大変な面は多いが、自分の育った地域・学校で育ってほしいと思生活している。 しかし、学校がなくなってしまうのであれば、利便性・生活面を考えると肝付町に残る必要性はないと考えている。学校があることで、この地域にとどまってくれている人も少なくはないと思う。 学校を統廃合することのメリットより、デメリットに目を向けてほしい。大人は順応できたとしても、当事者になるのは子どもたちなので子どもたちの声もしっかり聞いてほしい。

No	住所1	住所2	年代	意見	内容
29	肝付町	後田		存続を希望する	<p>・検討委員会の方々は、地域の代表で参加しているはずなのに、オフレコという指示があり地域の意見を聞けないまま参加されていないか。これは、話し合いを進めるうえで間違っていないのか。</p> <p>・これまで検討委員会で議論していただきありがたいと思うが、やっと地域や保護者が統廃合についての認識をしたばかり。(告知の仕方に問題あり)もっと話し合いの場を設ける必要はないのか。1年かからないで決めるのはおかしいのではないか？</p> <p>・検討委員会には学識経験者がおり、地域と学校のつながりについて研究されているとのことだったが、くにみよかとこまつりの活動などご存知なのか。周知のうえで統廃合を進めるだけのメリットがあるのであれば、さらによくなるという事を教えていただきたい。</p> <p>・検討委員会の議事録からも、あまりこのスケジュールに賛成の声が上がっていないように受け止められるが、なぜ進んでいるのか。</p> <p>・学校現場では15人～20人ぐらいの学級が望ましいと思われるが、先生方からよく聞く。児童生徒が30人以上になると、学習環境で子どもたちや先生方の負担につながるという懸念はないのか。</p> <p>人数が多いメリットは、沢山の友達ができ、視野も広がるかもしれないが、基礎学力の低下、集団での環境に適應できないなど、たくさんのデメリットを抱えている。核家族化、夫婦共働きに出る中、より手厚く子どもたちを教育していくための方針が、これでいいのかと疑問になる。</p>
30	肝付町	後田	10代	存続を希望する	<p>今までは、個別指導とか金曜日休んだとき先生が週報を持ってきてくれたりしたけど、大人数になると先生がそういうことができなくなって、もっと授業がわからなくなりそうだから学校をなくさないでほしい。</p>
31	肝付町	後田	10歳未満	存続を希望する	<p>私は、学校が大好きです。だから学校をいつまでも残してほしいです。どうしてかという、せつかく3年間お友達を作ったのに離れることができないから。2歳から9歳までよかとこをしていたのによかとこがなくなるんですか？それは、私は嫌だからです。どうしてかという皆と一緒に笑顔を作ってきたからです。私が学校が大好きな理由は、せんせいもやさしく教えてくれるし校庭でいっぱい遊んできたり、運動をいっぱいしてきたから。学校の中でも色々な笑い声がきこえてくるから。3年間お友達を作ったのにばらばらになりたくない。</p> <p>学校は古いけれど、落ち着く場所があるから。国見地区公民館にもたくさん昔のことを教えてもらっているから。</p>
32	肝付町	後田	10代	存続を希望する	<p>国見小をなくしてほしくないです。なぜかという、他の友人と別れるのがつらいし、国見小は他の小学校よりいいところがあるからです。高山小とか授業の進みが違うのでわかりにくいです。人数が多いとよけい周りのことが気になって勉強に集中しにくいです。しかも、国見小がなくなると住んでいる人が減るからです。もっと、国見小の良さがたくさんあります。なので、国見小をなくすのをやめてください。</p>
33	肝付町	後田		存続を希望する	<p>・いきなり人数の多い学校へ行くのは不安が大きい。</p> <p>・まずは、小中学校にしてはどうだろうか。島などはそういう学校もある。</p> <p>そしたら、校長、教頭など1人ずつでも良いと思う。</p> <p>・まだ高山小高山中は人数が多いので、これから先、もっと少なくなったら合併も仕方ないと思う。</p>
34	肝付町	後田		存続を希望する	<p>2月13日に再度開催された国見校区の保護者説明会に参加しました。保護者から「検討委員会は委員の人が自由に意見できる雰囲気だったのか」という質問に、教育長は「自由に意見が出来る雰囲気だったと思います」と回答されました。しかし、その前に、ホームページに掲載されている検討委員会の質疑に関する質問の際に、教育長は「会議の中ではなかなか発言できなかったで、と会議が終わってから私の所へ意見を伝えに来る人もいました」と説明していました。この教育長の説明は矛盾していると思います。その場しのぎの回答しかしていないと思います。全く不信感しかありません。</p>

No	住所1	住所2	年代	意見	内容
35	肝付町	後田	40代	存続を希望する	本日2月13日、国見小中学校保護者を対象に再度説明会が行われました。保護者から広報が不十分だったのでは」という意見に「事前にアンケートも実施し、各家庭に案内も配布したのに、これ以上の仕様が無い」という教育長は回答でした。保護者の指摘しているのは「学校の在り方」という表記が曖昧であって、なぜ「学校の存続か統廃合かを議論する場」ということを記載しないのか、そのような記載であればみんなの認識が違い、参加者も多く集まったのではないかとということ。他の質問に対しても、ただだと回答し論点のすり替えでした。最終的には教育委員会の課長が、広報含め今回の検討の進め方に不手際があったことを認めました。教育委員会は、8月の住民説明会で広報不足を認識しておきながら、1月末からの住民説明会の案内が「振興会回覧のみ」で行うよう指示したのは教育長だったと自らも認めました。検討委員会のメンバーに対しても「非公開」との守秘義務が課せられ、委員の方が誰にも相談できず、大きな負担を強いられていたことも明らかになりました。守秘義務のため、地域の人たちを集めて、意見をとりまとめるなどの行動も出来ず、地域代表でありながら地域の意見でなく個人の意見に委ねられていた訳です。これについても教育委員会が非を認めました。結局今回の検討が問題だらけだったのです。これらが明らかになった以上、一旦ゼロベースに戻し、議論をやり直すべきです。参加した保護者も口々に「今回初めてみんなが状況を把握できたのだから、ここからがスタートだ」と意見していました。新しい教育長の下、改めて真っ当な進め方で議論し直すべきではないでしょうか。
36	肝付町	後田		存続を希望する	国見小学校において説明を聞かせていただきました。 統合については子供達が1番影響を受けます。その子どもたちの意見は聞きません、と言い切った教育委員会に驚きました。子供達には意見表明権があります。統合が子供達の為と言うならば、聞いてあげてほしいと思います。
37	肝付町	後田		存続を希望する	まだ国見は単独で良いと思う。一学年が2~3人が何年も続けばやむを得ないと思うが。高山と合併すれば国見に帰って来た意味がなく、鹿屋に住めば良かったと思う。義務教育は子供をのびのび育てたい。やはり人数が多いと先生の目も届かず、クラスが荒れる可能性がある。(現に高山小で荒れてるクラスがある事を聞いている)小規模だと親が役員する可能性が高く負担はあるが、子供の事を考えれば絶対国見ぐらいの小規模が良いと思う。合併するにしても、2年後とかの話はあまりにも急過ぎる。あり得ない。しっかり納得する形をとって欲しい。
38	肝付町	後田	40代	存続を希望する	国見小学校で育ち、子供達も国見の校区で育てたいと思い、この地に家を建てました。先日、国見から学校がなくなるかもしれないと言う話を人伝に聞きました。後田研修センターで会が開かれていたことも知りませんでした。とても大切な事なのに出席できなかったことが残念でなりません。 過疎化が進み、子供達が少なくなっているのは事実ですが、まだ小中一貫校にするなどの段階を踏んでいただけないのでしょうか。国見から学校がなくなってしまうとますます過疎化は進むでしょう。 2年後合併の計画はとても急すぎる話だと思います。個人的な事になりますが、2年後私の子供は中学3年生と中学2年生です。高校受験に向け大切な時期に学校が変わり慣れない環境でやっていけるのか心配でなりません。

No	住所1	住所2	年代	意見	内容
39	肝付町	後田		存続を希望する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・申し訳ないのですが、まず、「今後の学校の在り方に関する基本方針」では、学校の統廃合に関わる問題だと認識できず、地域や保護者に周知されにくいかと思います。それが、意見交換会の出席人数につながっているかと思います。もう少し周知できるものに変えたほうが、みんなで考えられると思います。また、会の日時などの周知の仕方にも納得できない面があります。大切な会だと思うので、もう少し呼びかけの仕方考えるべきだと思います。</li> <li>・「今後の学校の在り方に関する基本方針」の記載の仕方分かりにくい。何が基本方針なのか何に配慮するのかつかみにくい。</li> <li>・意見交換会で賛成、反対どちらが多かったのか知りたい。もし、反対が多かったのならば、このスケジュールに至るまで学校を残すためにどんな手立てをとったかを明記するべきだと思います。</li> <li>・小学校はなるべく残すべきだと考えます。地域の過疎化が促進されるおそれがあります。(国見や波野に家を建てる人が減少するのではないのでしょうか。)</li> <li>・国見や波野では、公民館や社協の方々のお力添えで、子どもたちの素晴らしい活動がなされています。(国見ならくにもよかどこ祭り等)これは、他の地域にはないものではないのでしょうか。この活動がしっかり根付いてきたばかりなのに、活動ができなくなる恐れはないのでしょうか。</li> <li>・児童の推移など細かに記載していただいて有り難いです。ただ、支援学級へ入級する可能性のある保護者にも配慮して情報を提供していただけないのでしょうか。(支援学級が1～6学年編成のクラスができてしまう恐れはないのでしょうか。)</li> </ul>
40	肝付町	前田		存続を希望する	<p>今回の基本方針について、令和8年4月の再編で進んでいくにあたり、説明会の周知や地域への説明が十分だったかという点について疑問に思います。</p> <p>地域との関係性についても触れられていますが、まずコミュニティースクールを導入して、地域の声を積極的に生かせる環境づくりをしたうえで再編についての協議を進められれば同じ再編だとしても感情面がついてきたのではないかと感じます。学校に通う子どもの数を数値化するの簡単ですが、子どもの心理的な負担や地域住民の喪失感を数値化することは難しいと思います。諦め感ではなく、希望を持って再編の日が迎えられるように、地域との対話や理解を得たうえで進めていただければ幸いです。</p>
41	肝付町	富山	60代	閉校もやむを得ない	<p>肝付町にとって小中再編は喫緊の課題です。岸良学園については、今回の再編にあたっての評価や考察が欲しいものです。なぜなら、今こそ小中一貫が有効に機能させられる可能性があると思うからです。経済的にも児童生徒の側にとっても教育環境はかなり整えられ、良い運営が見通せそうです。</p> <p>段階的であっても良いので、将来的には小中一貫までという踏み込んで検討してもらってもよい時期なのではないか？楠傘との連携などは考えられないのでしょうか？不登校をどうするかも同時進行でお願いしたいです。学級集団としての構成数は文科省から提示されているぐらいが理想で、良好な人間関係の保持にも適していると思います。</p> <p>宮富校区については、単独でという方針のようです。地域住民や保護者の体験や意見の聴取・集約はなされたのでしょうか？肝付町内に通う通わせたいという児童生徒と保護者を大切に考えてほしいのです。中学校は1校なのですし、今でも高山中に通ってきました。高山小との年数回の交流は今も行われているようですが、宮富小から進学する生徒にとっては「負担は大きい」のだという声を聞きます。「スクールバスが運行されるようになったからいよいよ小学校も宮富ではなく高山まで通えるようになるだろうね」「よかったね」という声も出ています。文科省が小中の連携を打ち出すことになったいわゆる「中1ギャップ」を体験しているものがあるのです。それが宮富校区です。以上の理由から宮富校区こそ高山と統合すべきだと思います。高山中に今まで進学しているのだから、真っ先に統合の対象と考えるべきだと思います。再検討を切に願います。</p>
42	肝付町	富山		存続を希望する	<p>学校統合できちんとした教育が受けれるのであればいいとは思いますが少人数でも良いところもあると思うので生徒や保護者の方たちとしっかり話し合せて決めてほしい</p> <p>送迎の問題もあるためバスの手配や登下校や部活などに合わせた時間調整をしっかりともらいたい</p>
43	肝付町	岸良		存続を希望する	別紙参照

No	住所1	住所2	年代	意見	内容
44	肝付町	岸良		存続を希望する	<p>こんにちは。          私たち家族は肝付町に移住して今年で9年目を迎えます。          移住前は県外に7年住み、その間に東日本大震災を経験しました。          その頃より自分たちの生活環境を見直し理想の暮らしに合った土地を探して西日本を中心に旅して回りました。          日本の田舎はどこも素敵な自然に恵まれているのですが中でも岸良の山と川、海が広がる景色にひかれ移住を決意しました。          その時長女はまだ3歳にならないくらいでしたが二人目の子ども産まれる予定で、岸良には子どもたちが歩いて通える学校がある！          という所もポイント高かったです。</p> <p>現在岸良学園になり、二人通ってますが小規模校ならではの、岸良ならではの学校の行事、先生たちの対応に子どもたちはもちろん、私たち保護者も大変満足しています。          地域の方との交流もあることで登下校も安心して通えますし、なじみの方たちの声かけもお互いの成長や安心、安全を見守る上でとても良い環境だと考えます。          そのようなことから今回突然マスコミを先に通しての2年後の統廃合案はかなり憤慨と不信感を感じています。          昨年、岸良でも今後の学校の在り方についてと教育委員長から話がありました。          その時はまだまだ先のこともかもしれないし今は地域、保護者の気持ちを聞きたいとだけの事だったと覚えています。          全国的な少子高齢化、児童と教員数の減少、財政難といった現状も確かに受け入れなければならないことは重々承知のつもりです。          ゆくゆくは今回のような統廃合といった流れが自然とも言えるかもしれませんが、今回の唐突なマスコミからの発表は今後無いようお願いいたします。          また、二年後ではなく、現在の児童数など考慮して二学年不在となる四年後へと延期を申します。          その間に私たち岸良の住人、保護者等は自分たちにできることを模索していきたいと考えております。          例えば他の学校に在籍してはいるものの何らかの理由で不登校の子たちを受け入れる受け皿となるような小規模認定校となることで、新たな取り組みができ、その流れで自ずと生徒数が増えることも期待できます。          また、この春から新しく教育委員長を迎えるということで新たな知見も取り入れられるのではないかと感じております。          福島県での新しい学びの場所づくりにとても興味を持っています。          地域に学校がなくなってしまうということがどれだけの意味を持つのか肝付町教育委員会はもっと慎重に考えてもらいたいです。          答えを急がずに地域、保護者、子どもたちの声をもっと拾い上げてくれることを願います！！</p>
45	肝付町	野崎		存続を希望する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少対策として、町外流出を防ぐこと、戻って来られる環境を残すこと、そのために地元に残すことは必要ではないでしょうか。</li> <li>・町の振興計画と相違がありますが、他課や関係者とすり合わせや調整は行っているのでしょうか。</li> <li>・まずは中学校を統合して、その後小学校など段階的に統合する流れが負担が少ないように思います。</li> </ul>
46	鹿屋市	旭原町	60代	存続を希望する	<p>本城と後田が合併し、国見となった時の卒業生ですが、あの広い地域に学校がなくなった時の寂しさ廃れ方など、想像すれば私など地区にはいませんが、何とか岸良学園のようにでも国見の広い大地に学校を残してほしいです。          もっと少なくなってからでいいのでは？国見地区は今ではないと思います。</p>

No	住所1	住所2	年代	意見	内容
47	鹿屋市	寿	60代	存続を希望する	<p>過去、鹿屋市で勤務していたとき、統廃合の基本方針の意見募集から最終計画策定まで数年(3年)ほどかけ、地区ごとの説明会や地元や保護者の意見も反映され、計画の見直しもされた。その後数年内(5年?)に統廃合が行われた。基本方針や計画案の策定から統廃合完了まで、長い年数をかけて丁寧に行われたためスムーズに実施できていた。</p> <p>今回は、1月に基本方針が突然ホームページだけ出され、次に説明会もすぐ行われ、統廃合は令和8年4月と約2年しかなく十分な話し合い、合意、準備期間が短くスムーズな統廃合ができるのか不安を感じている。納得したスムーズな統廃合が行われるためには、以下の理由から令和8年4月ではなく年度を延ばして時間をかけゆとりあるスケジュールで進めたほうが良いのではと思う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地元や保護者の意見を時間をかけて集約して計画案を策定したほうが統廃合への理解が深まる。</li> <li>2. 2年では学校側の準備が間に合わず、不安を感じている職員もいる。例えば、教育課程の見直し(例:複式から単式への移行や行事)、閉校行事、備品整理、制服校則他の統廃合校職員の話し合い、統合する学校の教室や特別教室などの不足があれば、増改築等。</li> <li>3. 児童生徒についても、できれば統廃合についての意見をきいてほしい。また、過去の事例で小規模校の児童がなれずに不登校になる場合もあるので、事前に交流会などの行事や取り組みを行ったほうが良い。</li> <li>4. 統廃合までの年数が長いほど、教職員の行政転が少なくなり、転勤の回数も減り教職員の負担も少なくなる。</li> </ol>
48	鹿屋市	札元		存続を希望する	<p>今回の学校再編の動きに関して、学校職員は新聞報道で初めて知ったので、とにかく驚きと不安しかなかった。その後も管理職からは詳しい説明も何もない実態である。</p> <p>令和8年4月から統廃合を実施するような動きだが、閉校する学校でいえば、新しい環境に向けての児童・生徒の心のケアや、校内の備品整理などすべきことが多すぎるし、複式から単式への移行に向けても指導計画を大幅に見直したり、学校行事なども見直しをするために、学校現場ですべての学校が集まって話し合いを丁寧にしていく必要が出てくる。ざっと考えただけでもこれだけあるということは、実際に令和6年4月からの「やるべき事」はもっともつとあるはずである。もし、それらが雑になされると学校の混乱、子どもへの影響は必ず出るであろう。したがって、令和8年という短期間ではなく、せめて3年程度の時間は確保してじっくりと準備させてほしい。まずは、何をすべきか見直しを示したうえで有意義な再編にしたいと強く願っています。令和8年4月は絶対反対です。よろしく願います。</p>
49	鹿屋市	新川町		存続を希望する	<p>在り方検討委員会の資料によると、令和8年度から高山小に2つの小学校が統合されることになっていると書かれていた。しかし、今年度の高山小の実態としては、5・6年女子以外の更衣室が全く確保されていなかったり、教育相談に応じるための相談室もなかったりしている実態である。データによると、児童数減少に伴い、令和8年度の児童数は今よりも微減となっているが、特別支援学級が増えてきていることなどを踏まえると、学級数に対して教室を確保することも困難になると考えられる。子どもたちが不利益を被らないようにするためには、学校再編を実施する前に教室の増設など、ハード面の設備充実が必要不可欠だが、2年という短い期間では、とうてい不可能なのではないか。学校現場への説明がなく、職員間での話し合いもできていないため、今後2年間の見通しがもてていない状況です。したがって、令和8年度の再編ありきではなく、これらの課題を解決したうえでのスケジュールに変更してほしい。ご検討をお願いします。</p>

## 肝付町今後の学校の在り方に関する基本方針（案）に対する意見書

1月29日の南日本新聞朝刊記事及び2月2日に岸良会館にて開催された意見交換会で提示された上記案について、岸良学園保護者一同、下記のとおり意見及び提言いたします。

令和6年2月14日

### ■意見交換会の開催及び周知方法について

まず、昨年7月に開催された保護者向け説明会で、保護者からの質問に対し、一家庭でも反対意見があれば統合はしないと回答されたので安心していましたが、突然新聞報道で基本方針案として岸良学園が統合の対象であることを知り、非常に驚いている。また、2月の意見交換会の場で地域の方から出た「記載の内容が覆ることがあるのか」という質問に対する回答がどっちつかずの曖昧な表現であったことで、さらに不安と不満が高まっているところである。

意見交換会の開催周知方法にしても振興会回覧のみであった。先に行われた他校区での意見交換会での参加者が少ないことを聞き、別途PTAや学校評議員を中心に参加への呼びかけを行ったところで、本当に地域や保護者の意見の集約を目的としているのかと疑念を持たざるを得ない。新聞報道については意見交換会開催周知の一助にはなったかもしれないが、再編ありきの掲載内容であったことは非常に残念である。記事の最後にある検討委会長の「細かく多様な意見を参考にし、方針を定めたい。」というコメントに希望を託したい。

### ■基本方針（案）について

#### ・諮問の目的について（1ページ）

学校は「児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付ける場」とあるが、岸良学園において児童生徒数は少ないものの、学校教職員の熱心な御指導もあり、上記各能力や意識や十分に身につけていると考えている。

また、現校舎は平成10年に完成しており、建築後50年を経過している近隣他校と比較しても、老朽化対策やバリアフリー化等の設備的な課題は少ないと思われる。

#### ・複式指導について（3ページ）

小学校における複式指導の現況について、確かに先生方は2学年分の指導要領を把握し、教材や課題（宿題）の準備等で特別な指導技術（労力）が必要とされるのは十分承知できるが、県内の小学校の約半数に複式学級があり、今後も増えていくことが想定されるため、複式指導を経験される教員も増え体制は整いやすくなるのではないかと。実際複式指導を行っている教員に尋ねたところ、1人の教員が1学級30名超の児童をうけ持つのと、2学年10名未満の児童をうけ持つのではそこまで大きな差異はなく、ましてや当校の子ども達が1学年2～3学級ある児童と比較して学力的に劣ることはないとのことである。

これまでも教員によっては同じ学年でも子どもたちの学力に応じて宿題の内容を柔軟に変えていただくなど、確実に目が届く少人数の学校でよかったとの保護者からの意見もあり、複式や少人数学級に対する不満はない。

### ・今後の在り方について（5～6ページ）

基本的な考え方に「望ましい学校規模」として小中学校におけるデメリットが記載されているが、この内容は岸良地区においては20年以上同じ状況であり、そのことを理解したうえで通学させている。1学年2～3学級となるもはや町で1小学校、1中学校しかなく、そうなること次の「望ましい通学距離」とは矛盾することから、施行規則のただし書きを準用せざるを得ないため、肝付町においてこのことを基本的な在り方として記載するのはどうかと思われる。

適正化に向けての配慮すべきことについて、「学校間の交流の機会」については、町内他校との交流学習は既に取り組んでいただいております、子どもたちにとっても良い経験となっている。

本人・保護者が小規模校を選択できるシステムの導入とあるが、今回保護者から「小規模校特別認可制度」の紹介があり、平成9年に文部科学省が制定した、特色ある学校運営を進める小規模校が自治体全域から児童を集めることが認められるという当制度は、一人ひとりが主役になれる岸良学園にとってまさにふさわしいと感じたところである。小規模特認校は県内で82校、大隅地区でも13校あり、志布志の田之浦小学校は児童数4名からこの制度を活用して現在では28名にまでなっている。肝付町では未だ小規模特認校が無く、他校区の保護者アンケートにも小規模校を選択できるよう要望もあることなどから、受け皿として岸良学園を小規模特認校に位置づけることで、児童生徒数を確保できるのではと考えた。

今後の在り方として、再編・統合のみではなく、このような制度も周知するとともに、児童生徒数確保対策に力を入れてもらいたい。

スクールバスなどの通学手段の確保について、他自治体の事例にある平成25年旧根占町の5校が統合された際に児童が在学していた保護者からは、根占地区は小中高の時間帯を考慮したバス運行であったが、体調不良等で早退するときの迎えなどには対応できておらず、困惑することもあったとのことである。

地域との関係性について、岸良地区では公民館の活用やウミガメ学習の一環として実施している地域協同の海岸清掃など記載されていることは現在十分に取り組んでいる。学校再編後の校舎の利活用についても、旧岸良小学校は現在でも子どもたちの憩いの場になっており、年に数回PTAも美化作業に携わっている。

### ・スケジュール及び再編先の学校について（7ページ）

今回の方針案で最も反対意見が多かったのが、令和8年4月という再編の時期である。

5ページの「児童生徒への配慮」に、段階的に学校の再編を行っていくとあるが、この2年後という早急な統合が段階的といえるのか。令和8年度はまだ16名の児童生徒が在学予定で、特に後期課程8・9年生だけでも8名おり、このタイミングで環境を変えることはとても児童生徒に配慮しているとは思えない。

国見・波野地区も同時期の再編案であるが、1ページに記載の「それぞれの地域の実情に応じた最適な学校教育の在り方や規模を主体的に検討すること」について、令和8年4月という時期は岸

良地区の実情には応じておらず、行政の再編業務の合理化が強く感じられる。

ただ、保護者の間でもこのままでは近い将来学校がなくなるのではないかという危惧は常に感じており、今回提示された児童生徒数の推移をみて改めて実感したところである。また、再編時期の判断材料の一つとして教職員数が考えられるが、特に後期課程における専門教科の教員確保については厳しい状況であると理解している。

しかし、3年前に学校存続のため、地域や保護者、行政が一体となって開校した義務教育学校がたった5年で閉校となるのは見るに忍びない。ウミガメ学習や部活動体験など、ようやく新しい学校の特性が定着してきたところであり、そのような校風、地域で子どもを育てたいと移住やUターンしてきた家庭もあることや、地域の方々も子ども一人ひとりをあたたかく見守っていただいていることから、岸良地区の子育て環境を維持するためにも少しでも長い間学校を残していただきたい。

学校の統合先として、岸良学園はそれぞれ内之浦小学校、内之浦中学校となっているが、学校がなくなった後、その地域が一気に寂れていくのは、町内他地域の先事例を見ても明白である。

先日の意見交換会でも多数の地域住民が参加し意見を述べたように、また3年前の義務教育学校設立時の2000件を超える署名数にも現れているように、岸良に学校を残したいという人の想いは他地域よりも強く、これまでの様々なPTA活動や学校行事にしても地域の支援なしでは考えられない。よって、子どもたちの教育環境を第一に考えるのは当然ではあるが、地域の想い、願いも私達は一緒に考えていく必要があると感じている。

そこで、将来やむをえず統合となる場合でも、小中学校のうちどちらかは岸良地区に残していただきたい、児童生徒の移動にかかるリスク等を考慮して、人数の少ない中学校を岸良地区に残してはどうかと考えた。もちろんこのことは内之浦地区の児童や保護者、地域住民と協議したわけではないので、あくまでも提言であるが、おそらく今まで議論されたことは無いと思われるので、基本方針案に組み入れることで、新たな発見や展開、課題も見えてくると思う。

今回中学校を岸良地区に置くことでの、メリットとデメリットを下記に列挙するが是非とも今後の協議の題材として組み入れていただきたい。

#### 〈岸良に学校を置くメリット〉

- ①子ども達に違う環境で学ばせることで地域に対する見識が深まる。
- ②岸良学園が鹿児島水族館と提携して取り組んでいる「ウミガメ学習」をはじめとする岸良地区特有の学習を取り入れることができる（逆に小学校時は内之浦での宇宙学習を経験する）。
- ③岸良校舎は3階建てで、裏には高台があるため、津波時の安全性は内之浦中より高い。
- ④校舎も内之浦中（昭和41年）より岸良学園（平成10年）のほうが新しく、修繕見込みが少ない。体育館屋根や校庭も近年に修繕済み。
- ⑤岸良校はこれまでいろんな学校緑化コンクールで賞を取ってきており、環境がよく心身ストレスの緩和につながる。
- ⑥学校が残ることで地域の統合への反発や焦燥感も少なく、地域と子どもたちの交流もより活発化する。

- ⑦内之浦小学校は児童数がまだ多いが、推移からみる内之浦中学校の生徒数であればバス1台あれば送迎が可能である。
- ⑧運動会など地域と関わる大きな行事も内之浦、岸良交互に開催することで、地域間交流が深まる。

#### 〈デメリット〉

- ①内之浦地区の保護者からは反発があると想定される。⇒ 真剣に議論する場が生まれる。  
岸良に行くなら高山中に通わせたいという声もあがると思われる。⇒ 選択制にできるか
- ②送迎車両や運転手が小学校、中学校と別々になる。
- ③武道館がない。プールはあるが修繕が必要かもしれない。
- ④校名、校歌の再検討が必要

#### 〈その他〉

- ①岸良地区は既に旧岸良小が地域コミュニティースペースとしてあり、地域やPTAがボランティアで美化作業に携わっている。現在の学園校舎が廃校となり、2箇所となるととても地域での管理が難しい。一方、内之浦中学校は町立病院やコスモピアとも近いため、有効的に活用できる見込みがより高いと思われる。

## ■基本方針（案）の変更要請について

上記意見をもとに、今回提示された基本方針（案）に対する岸良地区の意見、提言は次のとおり。

### 1. 7 ページ「(3) スケジュール」にある再編の時期について

「令和8年4月」 ⇒ 「令和10年4月以降」に変更する。

- ・ただし、児童、生徒がいる間は保護者、学校、地域と十分協議したうえで、その方向性を定めること。
- ・その間、行政、地域、学校及び保護者は岸良地域の児童生徒数を増やすため、岸良学園を小規模校特別認可制度開設校として指定するなど、連携してあらゆる施策に取り組むものとする。
- ・学校の統合等に関しては、通学距離を最優先事項と捉えて検討すること。

令和10年4月以降とした理由

- ・令和8年度・9年度卒業生への影響を考慮
- ・令和10年度の後期課程生徒数推移に対する教諭・講師の数（2名）
- ・令和10年度の後期課程2学年（8・9年生）が生徒不在で、新7年生が後期課程（中学校）へ進級するタイミングと重なること。

### 2. 7 ページ、「(3) スケジュール」にある再編先の学校について

「内之浦小学校」、「岸良学園」 ⇒ 「内之浦小学校」

「内之浦中学校」、「岸良学園」 ⇒ 「内之浦中学校」

「内之浦中学校」を「〇〇中学校（旧岸良学園）」に変更する。

## ■その他の要請について

在り方検討委員会へ報告する各地区の意見交換会での意見は、町のホームページなどで公開すること。

以上、記載の内容については保護者だけの意見ではなく、各戸事前に子どもと話しをしたうえで臨んでおり、岸良学園児童生徒の意見も反映されていることを申し添えます。